

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		地域療育支援事業所 第2はまゆう療育園 (重心対象/放課後等デイサービス)	公表日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		利用定員に合った余裕ある居室スペースとなっております。	動線上に物を置かないなど整理整頓に配慮しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		とくに医療的ケアが必要な為、看護職員を利用者の状況に合わせ配置しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		情報の伝達方法として電話の他に専用LINEを活用し、連絡・相談や情報共有に役立ております。	構造化については、子どもが認識しやすい掲示方法など工夫していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		感染対策や環境整備（消毒や清掃）など、重症化しやすい利用者様のために、特に気を配っております。	乾燥する冬場の時期の「加温」について、フローアが広いことで加湿器の効果が少ないため現在対策を検討中です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		別の階に個別の部屋があり、いつでも利用することが可能です。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		定期的に見直しを行い、その都度職員全員で検証・検討しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		頂いた意見（評価結果）について、職員間で共有し業務改善につなげております。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎日のミーティングの中でも提案や議論を行っており、記録を残し休みの職員にも情報共有しております。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		第三者評価導入の必要性について、現在検討を重ねているところです。	対象児童が3名と少なく、かつ高額な費用が発生するためなかなか導入しづらい状況となっております。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月園内研修を実施。外部研修として児童発達支援センター主催の研修会に参加させてもらっております。	熊本県の「講師派遣事業」なども、今後活用していきたいと思います。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		令和6年8月に作成し、自社HP上にて公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		面談により客観的な分析のもと作成しております。	寝たきり児童の意思決定把握が難しく、こちらから問いかけを行い表情などで出来るだけ気持ちを汲み取る努力をしています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画作成には、他職種の職員が集まり普段の様子などの情報をもとに最善の支援方法を検討しております。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画書は職員間で情報共有され、計画に沿った支援を行っております。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		遠城寺式発達検査や乳幼児分析的発達検査を活用し確認しております。	意思表示が困難でも出来るだけ「こどもの小さなサイン」を読みとれるよう配慮しております。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		家族支援、移行支援、地域支援・地域連携のほかにも、本人支援として5領域（①健康・生活②運動・感覚③認知・行動④言語・コミュニケーション⑤人間関係・社会性）を意識した支援内容を設定しております。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別に児童担当職員が立案し、その内容について他職種が集まり検討しております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		季節行事や活動・制作など職員からアイデアを募り、工夫するようにしています。	他事業所の活動なども参考にしていますが、障害の特性に合わせた新しい企画は少ないのが現状です。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		行事（誕生会、クリスマス会、花見ドライブなど）参加することで集団活動となる活動を実施しております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		事前に支援方法や注意すべき点などを職員間で確認している。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援終了後の打合せでは、学校や保護者から得た情報や療育中の児童の様子などについて報告し、気づいた点などを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援内容だけでなく、気づいた点や申し送り内容なども記録するようにしている。	児童発達支援管理責任者がチェックし、出来るだけ多くの情報を盛り込むよう促している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年ごとの見直しでは全職員で検証・確認を行い、面談にて保護者から新たな課題を聞き出すようにしております。	「お願いしている立場なので」との保護者様の声がありました。遠慮なく何でも言える事業所となるよう、こちらから積極的に要望を引き出す配慮をしていきたいと思います。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		4つの基本活動の中で、その子どもの障害特性に合ったものを選択・組み合わせさせて支援を行っております。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		文字理解ができる児童に対しては、計画書の関係部分を「ひらがな」表記して意思決定出来る工夫をしています。	寝たきりで意思表示が困難な児童は、表情や目の動きで出来るだけ本人の気持ちを汲み取るように配慮しております。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		実際支援に関わっている児童発達支援管理責任者が参加しています。	他職員からの情報も集め、会議に出席するようにしております。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		医療的ケアの支援会議など、積極的に参加し連携を図っています。	天草地域通所支援事業所連携会議において関係機関と情報交換を行い、課題検討を行っております。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		支援会議（学校主催）や送迎時の学校専属看護師との申し送りなど、情報交換を密に行っております。今回初めて「保護者連絡システム」にも参加（登録）し、連携を図っております。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		担当者会議や支援会議で療育内容等の情報を提供し、相互理解に努めております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現在対象者はおりませんが、求めに応じていつでも利用当時の支援内容（情報）を提供する体制を整えております。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		児童発達支援センターの会議や研修に参加させて頂いております。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	どちらも言えない		寝たきり若しくは医療的ケアが必要な状態で、なお且つ滞在時間も短いため外部交流が難しい状況です。	人間関係・社会性において地域との関りや他のこどもとの交流機会も必要と考えており、何か方法がないか検討しております。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		会議に管理者が、研修に児童発達支援管理責任者が参加しております。	研修の内容によっては、関係する職種の実務者が参加出来るよう改善していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時に情報交換を行い、こどもの発達状況や課題について情報共有を行っております。	LINEで相談を受けることも増えており、見落としがないよう気を付けております。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		療育センターのペアトレや保護者交流会などの情報は、毎月園内に掲示して周知しております。	実際は参加者が少ないと聞くので、事業所からも積極的に案内していきたいと思います。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		利用開始（契約）時に行っております。	説明を受けてから時間が経っており、今後は定期的に説明の場を設けたいと思います。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		意向は面談にて確認するようにしております。子どもや保護者から求められていることを最優先に計画作成しております。	面談時に言い忘れていた事でも、あとで電話やLINEで連絡を受け柔軟に対応しております。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書を示しながら説明し、納得いただいた上で同意の署名をいただいております。	見直し（追加・修正）の際も、計画書を提示しながら説明し同意を得るようにしております。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		即答出来ない場合は、関係者や関係機関に問い合わせるなど適切な対応を行っております。	内容によっては相談員や関係各所へ繋ぐ対応の場合もあります。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	どちらも言えない		今年度、「親子ふれあい会」（保護者が集まる会）を企画・実施してみました。	保護者の都合が合わず、同日に集まる事が出来ませんでした。今後は別の方法を検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情対応について重要事項説明書と園内掲示ポスターにて周知しております。玄関に投書箱も設置し体制をとっております。	今のところ苦情等は挙がっておりませんが、苦情までに至らないよう、相談時点で迅速に対応するよう心掛けます。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月行事の案内配布の他、活動の様子（写真等）をホームページ上で掲載しております。	ホームページの閲覧状況は検証出来ていませんが、今後はLINE等で積極的に周知していきたいと思います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報保護に関する職員研修を定期的に開催しています。	写真使用等については、その都度保護者の了承をとるようにしております。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		ゆっくり話す、大きい文字で見やすくする、イラストや写真など視覚的に分かり易い方法で配慮しております。	見直し（確認）が出来るよう、情報伝達には電話よりLINEや書類（文章）を優先するようにしております。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		ウクレレ教室9名を招待し、演奏会を実施。当日は利用者も5名が参加されました。	1日だけの開催で全利用者が参加できませんでした。他にも来園していただける招待先がないかを検討中です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各マニュアルについての見直しや訓練は、定期的に行っております。	保護者への説明は契約時に行っていますが、時間も経っているため今後定期的に機会を作り周知していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画（BCP）は、感染と自然災害のそれぞれに対し策定しております。避難訓練も計画に従い行っております。	今後、訓練の様子などを自社ホームページ上でも掲載し、保護者様に周知していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		薬の変更や検査など、資料をいただき職員間で情報共有しております。	医療スタッフ（看護職員）だけでなく、全職種の職員が情報を確認し支援しております。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		現在食物アレルギーの対象児童はおりませんが、主治医からの指示内容は保護者経由で入手し対応する体制をとっております。	給食委託業者と連携し、食物アレルギーについて情報提供する体制をとっています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画の中で年間計画を立て、それに従い研修・訓練・点検などを実施しております。	計画以外でも、支援に不安を感じる事例があった場合は専門職のレクチャーを受ける体制を整えております。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画での研修会や訓練等の情報は、配布する「月の行事予定表」に記載し周知しています。	取り組みの詳しい内容については、自社ホームページを活用し保護者様へ周知していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットは当日に会議を開催し、再発防止に向けた対策をみんなで検討しております。	小さい事でも必ず挙げるよう職員間で周知しております。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止委員会及び研修会は計画に沿って定期的に開催しております。	疑わしい事例についても掘り起こしていくよう、定期的に職員アンケートを実施しております。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		健康診断（採血）時の危険回避のため腕を押さえる等の身体拘束があります。事前に文書で説明し、同意をいただいております。	身体拘束をしないで済む方法がないかを常に検討しております。